



「本の力 巡回展」

東日本大震災関係資料1,400冊を株式会社キハラから借り受け、展示しました。
多くの利用者が足を止め、見入っていました。(関連記事：p.7)

目 次

にれ「旧道立図書館のこれから」	1
新館紹介	
「なかふでなかまであつまーる・中富良野町図書館」	2
道内図書館紹介	
「図書館を本の森に・札幌市中央図書館」	3
事業報告	
子ども向け図書館ツアー「図書館のヒミツをさがせ！」	6
テーマ展示あれこれ	7
平成26年度北方資料室書庫ツアー「あなたもタイムトリップ～北方資料の世界」	8
平成26年度全道図書館新任職員研修会	9
道立学校図書館支援貸出の試行について／道立図書館利用促進リーフレットを作成しました	10
まちに図書館を 図書館設置促進パンフレットを配布しています	11
掲示板	12

に れ

「旧道立図書館のこれから」

北海道立図書館長 坂本 和彦

道立図書館は現在、江別市の文京台にあります。昭和42年までは、札幌市中央区北1条西5丁目に開館していたことを多くの図書館関係者は知っていることと思います。

この旧道立図書館は、大正11年、摂政宮殿下（昭和天皇）の本道行啓に際し、御下賜金を賜ったことから、これを記念し総工費9万9千489円68銭、面積357.11坪（約1,178㎡）の建物として、大正14年7月に起工し翌15年8月に竣工したものです。その後、昭和42年からは道立美術館、昭和52年からは三岸好太郎美術館、昭和58年からは道庁の第三別館として使用され、昭和60年から本年の3月までは道立文書館の別館として89年もの間使われてきました。



旧道立図書館100分の1レプリカ

この旧道立図書館も、築後90年近く経過し老朽化が進み、道有施設の有効活用の観点から基本的に歴史価値の高い南・西側壁面の保存と玄関ホールへの復元を条件に道が公募を行い、昨年12月に堀製菓（本社・砂川市）が「北菓楼札幌本館」として店舗や芸術作品などの展示ギャラリーとして利用することを提案し、本年1月に正式に売買契約を行い平成29年3月までのオープンを目指すこととなりました。

私は、前職の道庁総務部次長の立場で、建物の保存に関する公募条件の整理やプロポーザルの選定委員として売却までの一連の検討に参加いたしましたが、プレゼンテーションで見た堀製菓の提案内容は、文書館のメモリアルルームが配置されるなど、多くの道民に親しまれる建物になるであろうことが想像されるなかなかの提案だと感じたところであります。

現在の道立図書館の北方資料室前には、旧道立図書館の100分の1レプリカが展示されています。昭和41年に当時で20万円をかけて制作されたとされていますが、本年中にもこの建物の取り壊しが予定されていますことから、美術工芸品としての価値が上がるのでしょうか。将来にわたって貴重なものとなるのかもしれませんが、既に、道立図書館が江別に移転して46年が経過し、その当時勤務していた職員はおりませんが、道立図書館関係者にとっては、少し寂しい気持ちをもっておられることと思いますが、新しい建物が古い風情を残しつつ人々に愛される建物に生まれ変わることを期待しております。

また、余談ではありますが、この夏には図書館の前庭の一部（ポプラの木より前側）を隣接する酪農学園大学に売却することも決定しており、前職では道有資産有効活用委員会の委員長も務めておりましたことから、歴史ある道立図書館の節目に館長として在籍させていただく不思議なご縁を感じている次第であります。

なかふでなかまであつまーる・中富良野町図書館

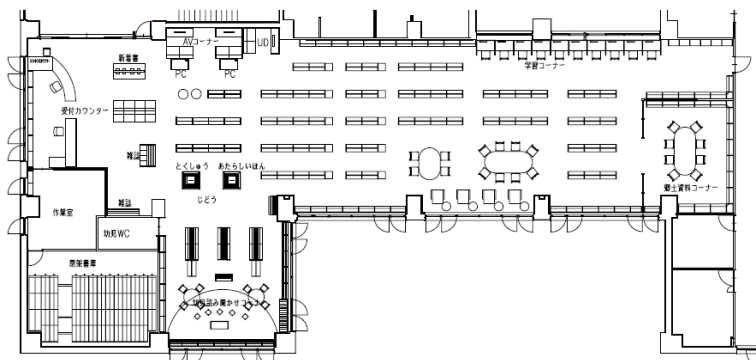
中富良野町図書館主事 筒井 祐介

平成26年4月1日、中富良野町図書館がオープンしました。昭和41年に建設した旧公民館の老朽化に伴い「ふれあいセンターなかまーる」を建設し、1階には役場福祉課、社会福祉協議会、デイサービスセンターが、2階には公民館、教育委員会、そして図書館が入りました。標題にもありますように「なかふでなかまであつまる」から“ふれあいセンターなかまーる”と名称がつけました。開館時間は平日10時から18時（水曜日は夜間延長として20時45分まで）、土日は9時から17時まで開館しています。休館日は毎週月曜日、国民の祝日（祝日が月曜日の場合は翌日）、年末年始とさせていただきます。新しい図書館は旧公民館図書室の約2倍の面積があり、約30,000冊の開架スペースとなっています（閉架書庫は約20,000冊）。フロア全体は低書架にし、なかまーるを利用する様々な方に利用しやすくなっていて、利用者からも「低書架で見やすい」、「館内が明るい」といった声が聞かれます。



他、新しいスペースとして、AVコーナーやインターネットコーナーを設けました。専用のコーナーとしては学習スペースを設け、中高生が学習に訪れるようにもなりました。事業としては今まで福祉課で行っていたブックスタート事業の所管を教育委員会に移行し、1階健康ホールにて乳幼児相談、各種健診を終えた母子が足を運びやすいようにし、読み聞かせコーナーにて読み聞かせ会の実施をするようになりました。

運営が始まってから約3ヶ月が経ちましたが来館者は今までの約3倍、貸出率も約2倍と出だしは好調ですが、今後も利用される方の目線に立ち、より良い図書館を目指していきたいと考えています。



図書館を本の森に・札幌市中央図書館

札幌市中央図書館長 江本 功

平成26年4月2日、札幌市中央図書館が23年ぶりにリニューアルオープンしました。藻岩山のふもとに位置し、その景観から連想される「森」をキーワードに、図書室全体を「森」に見立て、「本の森」がコンセプトになっています。改修部分には柔らかくて温かみのある「杉材（道南杉と秋田杉）」を使用し、高いデザイン性と機能性を兼ねそえた、個人の読書環境に配慮した空間作りを行いました。



今回のフロア改修の目的は大きく三つあります。一つ目は書籍の配置をエリアに分けて変更したことです。歴史・地理・社会科学の図書を2階から1階に移動し、1階を一般図書の貸出フロア、2階を調べものと相談対応のフロアと区分をより明確にしました。中央図書館は1階と2階が館内でつながっていないため、この配置替えで利用者はそれぞれの階で借りる手間がなくなり利用しやすくなりました。

二つ目は書庫の増設及びレファレンス環境の整備です。年々増加する所蔵資料に対応するため、2階の開架フロアの一部を書架とし、約10万冊の収蔵スペースを確保しました。また、レファレンスカウンターを移設・拡充したことで、より利用しやすい環境となりました。三つ目は利用環境の改善です。座席数を維持しつつ、より居心地の良い読書空間となるよう配慮しました。

1階フロアの特徴としては、まず、図書館の入口右手に設置された電子図書館コーナー「デジタル本の本の森」です。



木の切り株に見立てた6か所のブースでは、約2,400タイトルの電子書籍を体験することができます。

また、これらの切り株を囲むエリアをカーテンで仕切ると、ミニ講習会や映画会などを開催することもできます。

また、その奥には白木のディスプレイラックに、雑誌が壁一面に並ぶ「マガジンの森」があります。

20㎡ほどの空間に約300種類の雑誌が整然と並ぶ光景は、ひとときわ目を引きま



南側の閲覧用座席は、改修前は一列に並んでいましたが、改修後は、杉材の仕切ユニットで座席を交互に配置することで、隣が気にならない快適な個別空間へと生まれ変わりました。また、はめ込み式の椅子は開館当初のもので、布地を張り替えて再利用することで環境面やコスト面にも配慮しています。



2階フロアには、自分のパソコンを持ち込んで使用できる「キャレルコーナー」を新設しました。2時間の時間制限がありますが、電源を利用できるほか、インターネットの接続も可能です。

12席を用意しましたが、平日でも人気が高く、土日は満席になることも少なくありません。



作業に集中しやすいよう、個別のブースになっている「キャレルコーナー」

また、フロア中央にある4人掛けテーブル席は、荷物などでスペースを占有しないよう、すべてに仕切板を設置し、座席稼働率の向上を図りました。

藻岩山を望む南側の面には、30mを超える杉材のロングカウンターがあり、学生や社会人などの人気スポットになっています。

中央図書館では、図書館の資料を使用しない「自習」を禁止していましたが、今回のリニューアルを契機に、このエリアと読書室の2か所に限り、自習を認めるという新たな試みを行いました。



図書館南側のロングカウンター。平日でも人気が高く、常に利用者がたえない。

リニューアル後1か月の来館者数は48,425人で、前年同月比で約1.3倍、貸出冊数は1.2倍、新規登録者は1.7倍になりました。

利用者からは、「木の香りがして居心地がよい」「席も新しくなり、長い時間いても飽きない」などの感想をいただいております、大変喜ばしいかぎりです。

札幌市中央図書館は、図書資料の貸出や調べものをするだけの場所ではなく、市民の皆さんの生活や創造的な活動を支える「知の拠点」として、様々な情報を提供する場として活躍していきます。

子ども向け図書館ツアー「図書館のヒミツをさがせ！」

平成17年の開始以来10回目を数え、すっかり道立図書館の春の催しとして定着した感のある「子ども向け図書館ツアー」。今年は「図書館のヒミツをさがせ！」と題して、5月3日に開催しました。

研修室での開会式後、参加者は絵地図を手にして普段は入ることのできない図書館の奥深く探るツアーに出発。約1時間30分をかけて児童書庫、第1書庫、第2書庫を中心に館内各所を巡り、最後に研修室に戻って道立図書館ホームページの「北方資料デジタルライブラリー」に掲載されている電子書籍「デジタル絵本館」を紹介するというルートで実施しました。

ツアーでは、童話「かちかちやま」の絵柄が昭和初期から現代にかけてどのように変化したかの紹介や、1970年代の小学館学年誌『小学〇年生』のミニ展示と説明を行いました。学年誌の展示では、今も人気の漫画「ドラえもん」が同じ姿で40年以上も前から掲載されていたことに、子どもたちから驚きの声があがっていました。

途中、北方資料課職員による北海道の古地図の解説や企画支援課職員によるしかけ絵本とエプロンシアターの実演なども行われ、参加者は司書の説明に興味深そうに耳を傾けていました。

また、ツアーで訪れる見学先には謎の文字が掲示されており、最後にその文字を並べると「し・り・た・い」という言葉ができあがる趣向や、北海道「朝読・家読運動」のイメージキャラクター「ぶっくん」のバッジプレゼントなどもあり、参加者からは「今日来て良かった。楽しかったです」、「いつもは見ることのできない書庫に入ることができて良かった」、「いつも行っている図書館だけど、いろいろな工夫があるのがわかりました」などの感想が寄せられました。

参加した子どもたちの満足そうな笑顔が印象的な図書館ツアーでした。この日に訪れた子どもたちが、図書館を好きになり、これからも長く利用者として図書館を使い続けてくれることを願っています。

(利用サービス課)



普段は入れない書庫の奥深くを探検！



館長室だって入っちゃう。
椅子に座って記念撮影をしました。



しかけ絵本やエプロンシアターを楽しみました。

テーマ展示あれこれ

道立図書館の館内では、定期的に特定テーマによる資料展示を行っています。そのうち、一般資料では、「エントランスホール」「窓辺の本棚（一般資料閲覧室内）」「児童コーナー」を常設の展示コーナーとしています。

普段は、分類や形態等の違いにより、異なる棚や書庫に収められている資料を、季節の事柄やタイムリーな話題などをテーマとしてひとつのコーナーにまとめます。テーマの設定は、美術館の展示会や他機関の事業に連携することも意識します。

昨年度は、「テレビ放送60年の軌跡」「中原淳一・生誕100年」「芥川賞・直木賞150回」「Jリーグ開幕20年」「暦とともに」「だいじにしていますか？じぶんの歯」「はっけん！むしむしワールド」「ひんやり きらきら～雪・氷の本～」など26のテーマで開催しました。

また、特設コーナーとして、「環境関連コーナー」「理科読コーナー」「北海道で活躍されている方々によるおすすめの本」などを設置しました。

展示では、いろいろな所蔵資料を紹介するほかに、テーマに関連した施設や団体・企業等のご協力によりリーフレットやチラシ等を配布するなど、情報の発信にも努めています。

展示を行った資料は、「展示目録（リスト）」として、当館のホームページに掲載しています。展示が終了した後も、テーマに沿った資料を探すのに活用でき、市町村の図書館（室）の皆さんは、これらをまとめて借りることで当館と同様の展示開催が可能になります。

表紙の写真は、5月13日（火）～29日（木）に開催した「キハラ東日本大震災復興支援活動『本の力』巡回展」の様子です。出版社各社の協力により「3.11」以降出版された東日本大震災にかかわる資料を約1,400点展示しました。未曾有の被害をもたらした大震災の写真集、記録、原子力、放射能や復興に関する資料のほか、防災や災害時の心のケアに関する資料も紹介しました。

図書館の資料展示は、司書の力量が試される場でもあります。今後も資料に関する知識を深め、企画するテーマを工夫しながら、魅力的な展示を開催し、より多くの方々に図書館資料を利用していただけるよう努めて参ります。

（利用サービス課）



こどもの読書週間「大型絵本100」



児童コーナー「わく！わく！ぶーぶーワールド」



一般資料閲覧室「測量と地図の世界」



エントランスホール「ムーミン谷のあるきかた」

平成26年度北方資料室書庫ツアー 「あなたもタイムトリップ ～北方資料の世界～」

6月7日(土)、研修室と第1書庫を会場として、20名の参加により北方資料室書庫ツアーを開催しました。

今回のツアーは、北海道及び旧樺太・千島等に関する近世から現代までの多様な資料群を、普段は入ることのできない書庫を巡りながら紹介する入門編的なツアーでした。

研修室では、北方資料の特徴や道立図書館全体と北方資料の蔵書数の割合、主な業務など北方資料室の概要について説明した後、第1書庫に移動して2層から地層までの各フロアを案内しました。

最初に紹介した第1書庫2層では、図書をはじめとした殖民地区画図や鳥瞰図のほか、当館の所在地でもある江別市の今と昔の地形図を比較するなど、地域資料ならではの資料の紹介に盛り上がりました。

書庫内を移動して1層では雑誌、パンフレット、市町村勢要覧などについて説明して実際に何点かの資料を紹介した後、電話帳、新聞原紙、市町村広報等の資料や、林家文書、山田文庫、札幌オリンピック資料等の貴重な北方資料コレクションを所蔵している地層に場所を移して、それぞれの資料を解説しました。



最後の質疑応答では、資料が増えていく中で書庫の狭隘化に関する質問や、資料を包んで保護する「帙(ちつ)」についてなど、幅広い質問が出され、ツアーや資料に対する関心の高さも窺えました。

今回の講座は1時間と短いものでしたが、普段見ることのない資料やバックヤードを見た参加者からは、「道立図書館にこんな資料があるとは知らなかった。今度ゆっくり見に来たい。」「近くに住んでいるので、今後はもっと利用したい。」といった感想が寄せられ、北方資料への理解を深めていただけたことと幸いです。

(北方資料課)

平成26年度全道図書館新任職員研修会

この研修会は、図書館活動に必要な基本理念の理解及び基礎知識の習得を図ることを目的に、毎年道内の公立図書館、公民館図書室等に勤務して1年未満の職員を対象として実施しています。講師には、道立図書館職員のほか、道内の図書館で活躍する職員を迎え、基本的な心構えから、図書館現場の実際的な事例や基本的な技術までを学ぶ場としました。

また、事後課題のレポートを作成することで、各職場に戻ったあとも研修内容の定着を図っています。

■期 日：6月12日（木）～13日（金）

■会 場：北海道立図書館研修室

■参加人数：36名

■日 程：

【1日目】

講義「図書館で働くということ」

北海道立図書館利用サービス課長 宮本浩

講義「カウンターの仕事」

沼田町図書館主事（司書） 菊池詩織氏

講義・演習「児童サービス」 恵庭市立図書館主査 黒氏優子氏

【2日目】

講義・施設見学「知って使って 道立図書館 ～協力サービスと館内見学～」

北海道立図書館北方資料課主査 小川靖子

講義「著作権法 入門編」 北海道立図書館資料課主査 原美代子

講義「図書館での本のライフサイクル ～資料収集～」

幕別町図書館主査（司書） 民安園美氏

情報交換 北海道立図書館企画支援課長 吉原和夏子

■事後アンケートから

- ・図書館で働くことは、いつでも利用者に満足してもらえるサービスをする事だと改めて認識しました。
- ・カウンターの注意点など、最低限押さえておかなければならないことを勉強できたのは良かったです。
- ・児童サービスでは、司書の目を養うためのアドバイスもいただけて、ためになりました。選書の参考にさせていただこうと思います。
- ・資料収集の講義では、新しい視点で作る図書館が大変参考になりました。
- ・図書館に異動して3か月の私には全てが良い勉強になりました。特に法律に関する講義は、フロア管理をする立場からは熟知するべき事項であることを再認識しました。

（企画支援課）



情報交換の様子

道立学校図書館支援貸出しの試行について

「授業準備のために、多くの本を参考にしたい」「学校図書館で資料展示を行いたいが、本が足りない」「授業で生徒に調べ学習を指示したが、調べるテーマに関する資料が少ない」など、図書や図書に関する情報の不足にお悩みの学校図書館に朗報です。道立図書館では、所蔵資料を学校図書館に有効に活用していただくため、4月から「学校図書館支援貸出し」を試行しています。この事業は、道立学校を対象に学校図書館へ図書資料を冊数無制限で30日間貸し出し、また、ご希望に添って求めるテーマに関連する図書館資料の紹介、本の探し方についてのアドバイス等のレファレンスサービスを行うものです。



見学旅行や学校祭に向けて役に立ちそうな本を展示する、読書感想文を指導する際に題材となりそうな本を生徒に紹介する、また授業を担当する先生自身が教材研究の資料として活用するなど、いろいろな利用方法が考えられます。

詳細は、道立図書館ホームページに掲載されているリーフレット「道立学校図書館支援貸出し（試行）のご案内」をご覧ください（[トップページ](#)>こどものページ>[学校の先生方へ](#)）。

なお、「学校図書支援貸出し」を受けるにあたっては学校の申請が必要となります（6月1日現在で、8道立学校に交付済み）。まずは登録申請を！（利用サービス課）

道立図書館利用促進リーフレットを作成しました

道立図書館では、一般利用者と市町村図書館（室）向けに利用促進のためのリーフレットを作成しました。一般利用者向けは、インターネットを利用した予約貸出しの方法（インターネット予約貸出サービス）について利用の流れを順序だてて説明したもの、市町村向けは協力サービスの概要を「貸出し」「レファレンス」「購入」リクエスト」などのサービスごとに解説したものとなっています。

また、今年度は、閲覧室で配布している「貸出しのご案内」と子ども向けの「利用案内」も改訂しました。どちらも、これまでより見やすく、より使いやすいものとなっています。

これらのリーフレットが、図書館を利用する多くの方のお役に立つことができれば幸いです。なお、リーフレットは当館ロビーのほか、道立図書館ホームページ（[トップページ](#)>[インターネット予約貸出](#)）から入手することができます。（利用サービス課）



まちに図書館を 図書館設置促進パンフレットを配布しています

本誌2ページにあるとおり、平成26年4月1日、上川管内中富良野町に図書館がオープンし、中富良野町は、道内では98番目の図書館設置市町村になりました。オープン以来、たくさんの人々に利用され、にぎわっています。

公立図書館は、近年、本の貸出しにとどまらず、子どもの読書活動への支援、行政・医療・福祉・ビジネスに関する情報の提供など、地域における学習や情報の拠点としての役割を担っており、赤ちゃんからお年寄りまで、いつでもだれでも気軽に利用できるよう、さまざまなサービスを行っています。さらに、学校や福祉施設等への支援、ボランティア等との連携を通じて、人づくりや地域づくりに貢献しています。

しかし、本道において、市における図書館の設置率は97.1%ですが、町村では44.4%にとどまっており、町村における図書館活動は未だ十分とはいえない状況にあります。

町村の事情は多様ではありますが、すべての道民が図書館サービスを楽しむことができる日がくるよう、「図書館設置促進パンフレット」を作成しました。

平成26年1月には、全市町村教育委員会に配布したほか、当館のホームページに掲載しました。また、「市町村活動支援事業」等により図書館未設置町村を訪問する際にも、このパンフレットを元に説明しています。(企画支援課)



掲 示 板

<職員人事異動>

退 職 平成26年3月31日付け

館 長 阿 部 豊
管理課主任 小 山 晋

転 出 平成26年4月1日付け

総務企画部長 千 田 朗 (学校教育局義務教育課専門参事へ)
管理課主任 高 橋 聡 人 (総務政策局総務課主任へ)

転 入 平成26年4月1日付け

館 長 坂 本 和 彦 (総務部次長 (兼) 行政改革局長から)
総務企画部長 小野田 元 (教育職員局福利課主幹から)

再任用 平成26年4月1日付け

管理課主任 川 端 道 隆 (任用期間更新)
北方資料課主任 鈴 木 浩 一 (任用期間更新)
資料課主任 佐 藤 良 雄 (任用期間更新)

館内異動 平成26年4月1日付け

企画支援課主任 西 岡 祐 子 (利用サービス課主任から)
利用サービス課主査 原 田 英 明 (企画支援課企画主査から)
利用サービス課主事 森 定 理 恵 (資料課主事から)
資料課主査 原 美代子 (利用サービス課主査から)
資料課主任 今 野 徹 (北方資料課主任から)
北方資料課司書 南 部 歩 美 (資料課司書から)

館内異動 平成26年6月10日付け

企画支援課主事 森 定 理 恵 (利用サービス課主事から)
利用サービス課主任 大 塚 寿 信 (企画支援課主任から)

北海道立図書館報 第197号

平成26年 7月 16日 発行

北海道立図書館長 坂 本 和 彦

〒069-0834 江別市文京台東町41番地

TEL : 011-386-8521 (代 表)

ダイヤルイン 386-8531 (総務企画部)

386-8522 (利用サービス部)

386-8523 (北方資料室)

FAX : 011-386-6906 (利用サービス部)

388-2063 (総務企画部)

E-mail : gyomu@library.pref.hokkaido.jp

ホームページ : <http://www.library.pref.hokkaido.jp>